

# 支部便り 平成20年9月 みつわ会東北支部

## 悠然と大樹大暑に對ひけり 爽風

永い年月、暑さ寒さに耐えて生きてきた大木に畏敬の念。

——— 9月の行事 ———

	支 部	▽みちのく損保
9月4日(木) ～3日間		富士五湖周辺ゴルフ遠征 ・・・有志・・・
11日(木)		ダンス講習会
16日(火)		第8回海釣り大会
20日(土)		第57回麻雀大会
25日(木)	昼食会「しゃぶ禅」12時 出欠の連絡を9月19日までに	ダンス講習会
27日(土)		LPコンサート

▽平成20年度みちのく損保の役員

会長に**大久保さん**。他のみつわ会会員の役割は前年通り。

### ——— 全国支部長会議(懇談会) ———

7月1日、お茶の水本社で支部長会議がありました。出席は、本部、九州、新潟、名古屋、東北各支部長。議題は

- ・50周年記念祝賀会の各支部での実施報告
  - ・会員資格の範囲を広げることの検討。(会員数が減少傾向にあるので)
  - ・支部交付金の減額が検討されていること。
- などで、本会議での決定事項は特にありません。



### ——— お詫びと訂正 ———

下記の方の連絡表に誤りがありました。正しい番号を下記に掲記しましたので訂正をお願いします。それと、「20年度総会特報」のなかで、遠来の会員に触れた個所(2ページ)がありましたが、郡山の鈴木久教さんの名前が抜けていました。失礼しました。



駒津 章吉	0178-35-3065	長井輝夫	773-0387
千葉三千代	0177-26-5141	星 利夫	228-2104
庄司きみ子	228-1718	千葉繁明	211-8028
宮本 真弓	0178-20-7315		

## 芭蕉の辻物語（1） 葛西 洋一

### 「会社は銀行とキャバレーに挟まれていた」

就職難の中、私が昭和29年に入社した日新火災の支店が芭蕉の辻にあつて、日本長期信用銀行の支店と道路に面した綿店と、その後ろにある土蔵造りのキャバレーに挟まれており、東北一の金融街の面影をとどめて、銀行の本支店、保険会社の支店が軒を連ねていた。私はついその3年位前まで、近所の南町通り80番地に住んでいたが、興味がなかったので出かけていくこともなかった。

ところで、今年が会社設立100周年ということなので、芭蕉の辻について纏めてみようと考えました。私一人で歩けない体になってしまい、諸兄姉に色々お聞きすることも出来ず、資料なども集めることもままならない昨今であり、取り敢えず手近な資料のみでの作業ですので、不備な点などご指摘いただければ幸いです。

### 芭蕉の辻の名前の由来

“伊達政宗の密偵、芭蕉の功を讃えるため、札の辻を賜った？”

政宗は岩出山に移された時、出羽国秋田郡久保村矢橋の虚空山風袋寺の虚無僧、芭蕉を連れてきて、諸国の情報を集めさせ利用したが、その功により札の辻の四隅に楼閣を築き与えたが、街道が賑やかになり、これを返上したので、その名を残すため芭蕉の辻と名付けた。（諸説あるがこの説が有力）

芭蕉は名取郡増田の在に引っ込んだが、ここに虚空山風袋軒（※）が明治初年まであったという。

（※）普化宗の寺院（風袋寺）は、二君に仕えぬ義士の隠れる場所として公認されており、虚無僧は間者の役割を請け負うこともあつて、傑出した剣、禅、樂（尺八）の達人でした。

普化宗は、中国唐代の普化禅士を宗師とするが、風袋軒は宮城、岩手、山形、福島の実地にまたがる普化寺不智派の本山で、明治四年の大政官布告により廃たれるまで、終日尺八の音色が聞こえていたといひます。

（つづく）

## 縁というもの 千葉 繁明

あ る日、何気なくテレビで昼のニュースを見ていたら、画面に居並ぶ警察官を前にして訓示辞をしている小娘が写っているではないか。アナウンサーが、今日は1月10

日で110番の日です。正しい110番啓蒙の為に今年の「ミス仙台」に一日交通司令を任命して、云々と言っている。ああ！今日は1月10日だったかと、ぼんやりとニュースを見ていたが、暫くして、あれ！

この小娘どこかで見た顔だぞ、なんと、写っているのは、自分の娘ではないか。何でニュースに写っているのだろう。

考えてみれば、その頃の私は、仕事にかこつけては、飲みに行ったりマージャンをしたりで毎晩のように夜遅く帰っていたので、家では娘達と顔を合わせることも少なく、まことに勝手な父親であったのである。こんな父親に話をしたとしても、そんな大それたことは止めろというに決まっているからと、娘と母親で、私には内緒で、一日交通司令等という大それた事を引き受けたのであろう。

たまたまニュースを見たから、娘の行動を目にしたという、まことにお粗末な親父であったのである。

月日が過ぎて、そんな娘も縁があって結婚することになり、先方のご両親とホテルで会食をしながら顔合わせをすることになった。妻から、今日は大事な日ですから、きちんとしてくださいよと何度も念を押されたので食事をして緊張して話題も途切れがちになってしまい、なんとなく気まずくなってしまった。

仕方が無いので、私が昔知っている人と、先方の苗字が同じというだけの、取り留めの無い昔話をしてしまった。

妻は、へんなことを言うのは止めなさいと盛んに足をつつくのであるが。

話というのは、私が就職した損害保険会社で営業を担当していた頃、といっても、独身時代の若い頃であるから大分昔のことである。何店か代理店を担当している中で、仙台市内の機械工具販売店をしている店があった。社長が営業を、奥さんが経理を担当していて、西も東もわからない未だ若い

私を社長も奥さんもとても可愛がってくれた。店は結構忙しいようで、若い人がひとり店を手伝っていた。

ある日、社長から、「私の弟で、店を手伝わしているのだ」といって、その若い人を紹介された。当時の私は机に座っているのは苦手で、代理店の所に行っては息抜きをしていたのである。特に、未だ若い私を可愛がってくれたこの社長夫婦の店には、随分と足を運んではお菓子をご馳走になったりして、息抜きをしていたのである。そんな若い私を嫌がりもせず、親切に面倒を見てくれたご恩はとても忘れられない。この年になって、なおさらいつかはお会いして、お礼を言いたいと思っていたのである。

ただそれだけの話で、名前が同じというだけで、話題にしてしまったという話であるが。

ところが、先方のお父さんが、暫くじっと私の顔を見ていたが、おもむろに、その話の、機械工具販売店は私の兄の店で、そのとき店を手伝っていたのは私ですというのではないか。しばし唾然としてしまった。

いつかはお会いして親切にしてくれたお礼を言いたいと思っていた人達とこんな形でめぐり合うとは。

縁とは言え、こんな偶然があるのだろうか。後日、結婚式場に駆けつけてくれた、新郎のお父さんの兄ご夫妻と、再会を果たし、親切にして頂いたお礼を言うことが出来たのは言うまでも無い。

未だ私が若かった頃の遠い話である。縁は異なるものとは云うが不思議なものである。



## タイムスリップ

♪こんな～ 時代も～ あ～ったネと～♪ (写真は葛西さん提供)

いつでも風の中に君、みつけてほほ笑む  
そんな時、  
過ぎた日々にやさしく灯がともる

「一人もそんなに辛くない」  
小さな呟き

町はずれ、川のほとりで水切り遊び、  
思い出を投げ、  
一つ一つの季節に今さよならを

この街、何故か淋しげな人並流れる  
緑なす草叢は  
いまアスファルトの下に眠る  
いつの、いつの日にかまた、夢にいぎなう

「夢にいぎなえ」歌詞・曲 浜田省吾

